

元旦マラソン大会

“今年も元気にスタートしました”

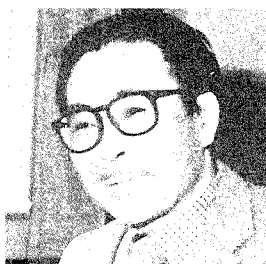
第十回上谷地区体育振興会

元旦マラソン大会

昭和六十三年元旦、午前十時三十分。谷村第一小学校校庭を百十二名の人達が、四キロの道のりを一斉にスタートしました。

まるで春を思わせるような澄みきった青空の下、今年で十回目を迎えた「上谷地区体育振興会元旦マラソン大会」は、和気あいあいと開かれました。

この大会の開催されたきっかけと今までの経過などを、地区体育振興会事務局長の梶原氏と地区体育振興会会長の上条氏に伺ってみました。



梶原 清さん

梶原 昭和五十二年四月の上谷地区体育振興会議の中で、「スポーツを敬遠してしまいがちな冬期に何か行事を行ってみてはどうか」という意見が出ました。役員の間は賛同したもの、種目を決定するのに随分時間を要しました。「地区の人が誰でも気軽に参加できる」ということ

を最大の条件として検討していき、結局このマラソン大会に決定したのです。企画・立案に当たり、何度も話し合いを重ね、当初は五十三年十二月実施を目標に進めましたが、種々の問題を整理する中で、「思い切って元旦にしよう」ということになりました。

コースは上谷地区内、距離は誰でも完走できるように比較的短くすること、参加は無料にするなど、計画の骨子は徐々にまとまってきました。ただ最後まで不安の材料となつたのは、参加者が集まってくれるかどうかということでした。ポスターを市内に貼り、チラシをまき、役員全員が宣伝活動に東奔西走しました。そして、五十四年元旦、市内はもとより市外からも希望者が集い、百五十名の参加者を得て、とうとう第一回の上谷地区体育振興会元旦マラソン大会が開催されたのでした。

ところが、二回、三回と回を重ねるうちに、新たな問題が生じました。とにかく参加者を集めようとしたばかりに、市内外の有志のみが集まってしまう、大会そのものが競技志向になってしまふことが危惧されるようになってきました。そこで「そろそろ地区の

人にも大会が浸透してきたはずだし、今度は地区の人のみを対象に行つていこう」と思い切つて対象者を限定してしまいました。

ポスターもチラシもなく、心機一転のスタートをしたのです。年々高まってきた気運を払い除けての新しい形にすることに、当然不安を伴いました。しかし、そんな心配とは裏腹に三歳の幼児から七十歳のお年寄りまでの幅広い年齢層の人々が興味を持ち、参加者は、百二十名に達しました。

今大会は、十周年ということで、参加賞、表彰状の外にメダルの授与も行いました。節目の十周年ということで、今後のこの大会に対する抱負を地区体育振興会会長の上条氏はこう語ってくれました。



上条通雄さん

上条 現在の形に落ち着いてようやく役員も慣れてきました。また、地区の人々の関心

も高まってきました。何よりもこの大会に対する理解を示してくれているのが、運営していく上で一番のポイントであると感じています。ただ、ここまで来るのに担当となつた地区内の自治会長をはじめ大勢の方々の苦勞は、並大抵のものではありませんでした。十回を迎えた今大会まで、一度の中止もなく、一人の落伍者もなくやってこれたのもその方々のお陰だと思つてます。しかし、今でも、正月ということ都合が悪くなつてしまふ役員も出たり、コースが道路上であるための交通事情の問題、賞品、運営費の問題などいくつかの課題は残っています。これらも話し合いの中で一つ一つ改善していきたいと思つています。

こんな小さな組織ですから地区の皆さんに支えていただかなければ成り立つてはいかないと感じています。この大会は、そのご恩を地区の皆さんに輝かしい新春を明るく、健康に迎えていただくことで還元したいという意味も含めて、続けていきます。何年かの後に「お正月だな、今年も元旦マラソンがあるな。」と思つていただけるような大会にしたいと思つています。